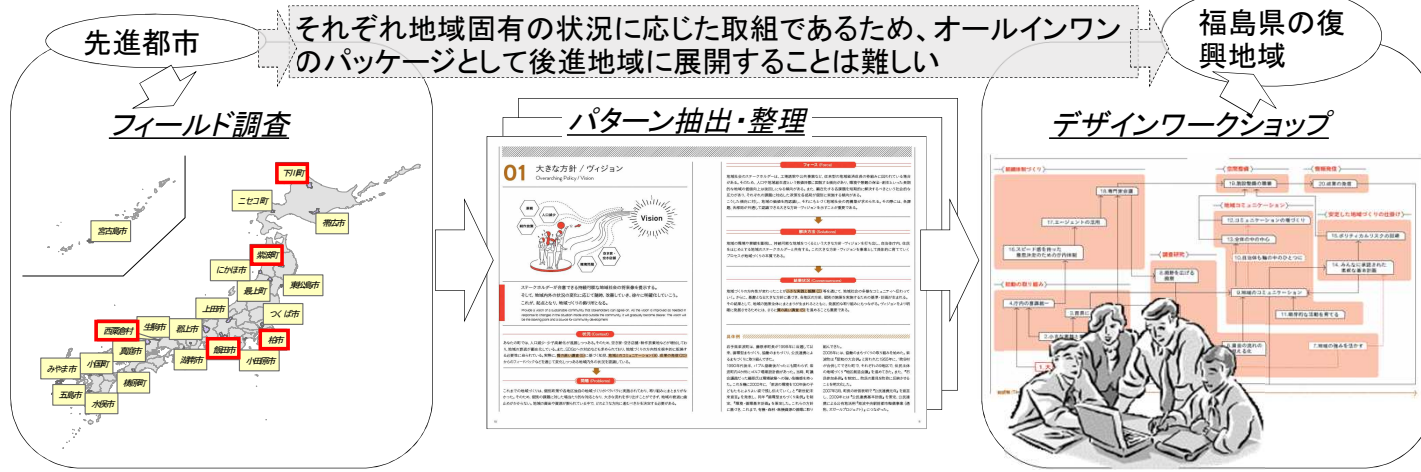




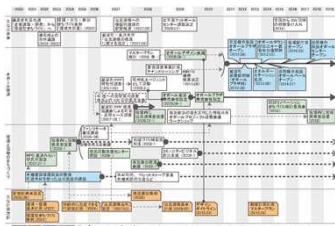
環境先進都市・まちづくり先進都市と呼ばれる都市・地域が存在し、それらの中には多主体の共創的プロセスにより地域の課題が克服され、新たな価値が創出されている事例も見られる。しかしながら、情報を包括的に整理・共有する枠組みが未整備であるため、得られた知見はそれぞれの現場で共有されるに留まっている。本研究では、環境・まちづくり先進都市である岩手県紫波町、宮城県女川町、宮崎県日南市の資料文献調査及び政策担当者へのインタビュー調査に基づき、その地域づくりの過程において特徴的に現れる要素を抽出し、パターン・ランゲージの枠組みに基づいてパターンを抽出した。さらに、抽出されたパターンから先進事例に共通するプロセスの構造と地域ごとの特殊性について検討し、先進地域から他地域へと持続可能な地域づくりの技術・知識・経験を展開するための枠組みを提案した。



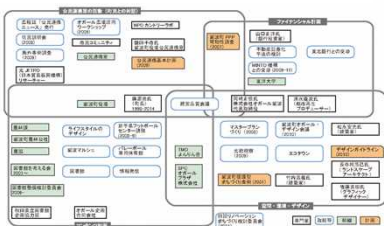
パターンランゲージとは？

「パターン」とは、繰り返し発生する課題に対して実践されてきた課題解決のアイデアを文書化したもの。この際、各「パターン」は解決方法だけではなく、それが適用できる「状況」、明確化された「課題」、その背後に働いている力であり解決方法を導出するためのヒントとなる情報「フォース」、そして「解決方法」とそれが実行された後に実現する「結果状況」という一連のフォーマットに基づいて記述される。そして、パターンを言語のようにつなぎ合わせることで、複合的な問題への解決を目指す。

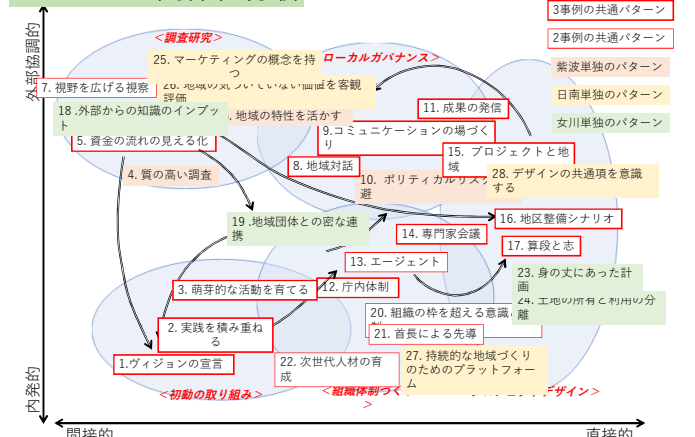
先進事例調査



資料・文献調査
→政策担当者へのインタビュー調査



パターンの関係性分析



パターンの記述

09 コミュニケーションの場づくり
Creating Spaces for Communication

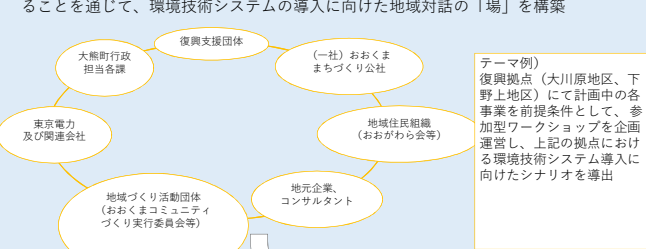
15 プロジェクトと地域
Project and Region

今後の課題

- 大熊町の実態調査 (2021-2022)**
 - インタビュー調査・質問紙調査により、復興地域づくりに関わるステークホルダーの洗い出し、これまでのステークホルダー連携実態と今後のニーズの分析
- 地域づくり先進事例の調査 (2021-2022)**
 - 文献調査・インタビュー調査により、対話の場をプロデュースするための枠組み(対話の主題選定、タイミング、参加主体、頻度、方式等)の分析

参加側ワークショップの企画・運営 (2023-2024)

地域再生・環境再生をテーマとする参加型ワークショップを企画運営し、複数回実施することを通じて、環境技術システムの導入に向けた地域対話の「場」を構築



一般化 (2025) 福島型創造的復興モデルの提案

- 全体的な構造として、動き出すためのきっかけがあり、そして、最初は調査研究や地域対話がなされつつ、組織体制が整備される。それらに続いて、直接的なプロジェクトのデザインがなされる。
- 間接的なアプローチから徐々に直接的アプローチへと移っていくという構造が共通して見出される。